

# 2012年度経営プラン Q3フォロー

2013年2月6日  
古河電気工業株式会社  
CFO 櫻 日出雄

- 1. P&L、B/S 説明**
- 2. 営業利益増減分析**
- 3. セグメント別営業利益分析**
- 4. 品種別売上数量推移**
- 5. 今期の取り組み**
- 6. 通期業績予想(据置き)**

# 12Q3累計実績 自動車部品好調で前年比で増益

P & L	a	b	b-a	増減要因
	11Q3	12Q3	増減	
<b>売上高</b>	6,929	<b>6,679</b>	<b>-250</b> -3.6%	特殊要因 -203、実質 -47 うち地金-205、新規連結+104、 在外子会社為替-102
<b>営業利益</b>	115	<b>131</b>	<b>+16</b>	特殊要因+15(P.5参照)
為替損益	-3	+10	+12	3Q末円安進行で評価性差益
<b>経常利益</b>	99	<b>123</b>	<b>+25</b>	
特別損益	-146	-20	+126	前年に米国反トラスト法-153
法人税、調整額	-86	-46	+39	
少数株主損益	-15	-16	-1	
<b>当期純利益</b>	-148	<b>41</b>	<b>+189</b>	

(注)損益的にマイナス項目は-をつけた

銅建値平均(円/kg)	722.6	669.2	-53.4
為替(米ドル)期中平均	80.59	79.39	-1.20

## 12Q3末B/S実績(前年度末比)

FURUKAWA ELECTRIC

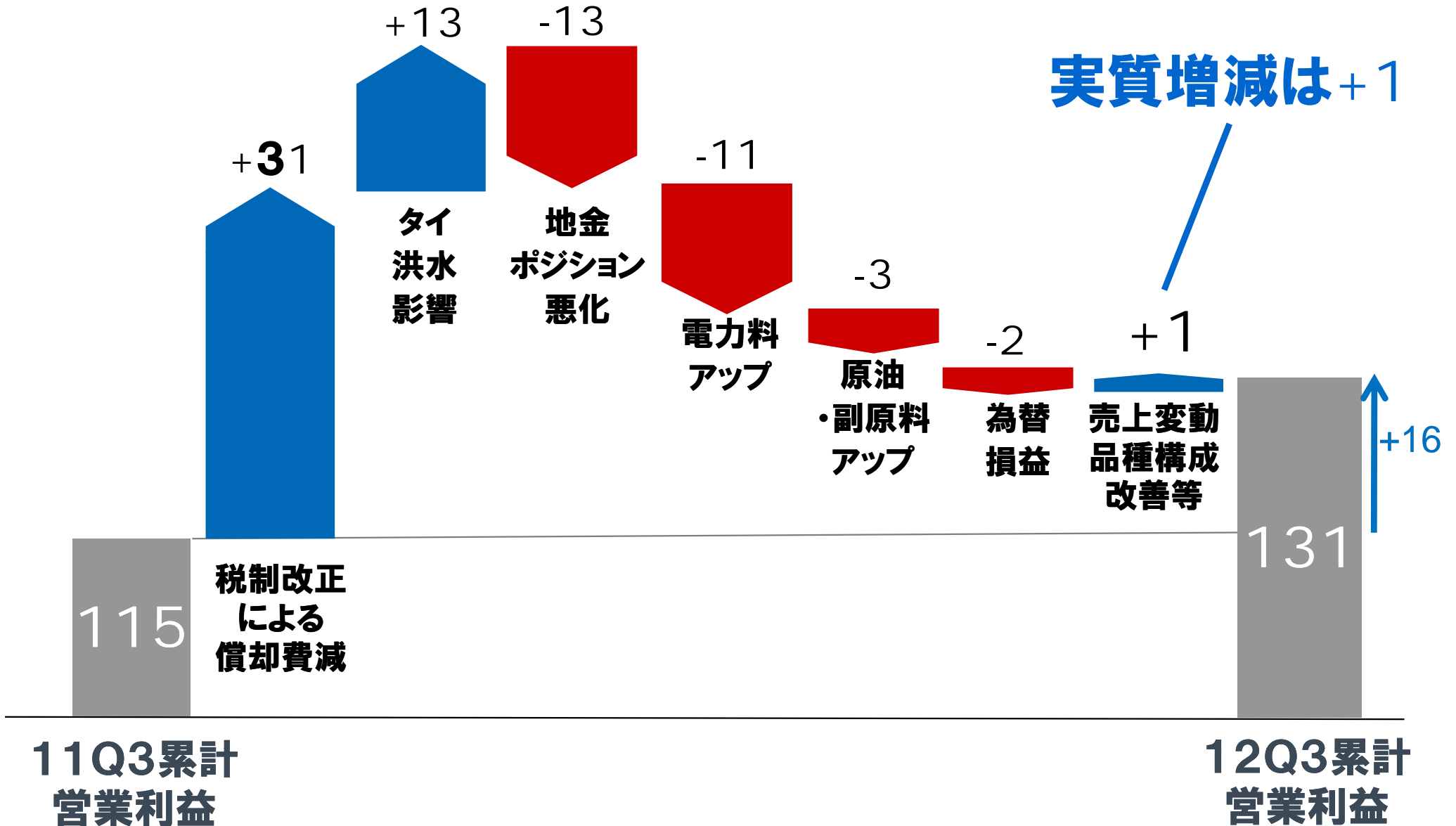
(総資産、有利子負債の単位:億円)

B/S	a	b	b-a
	11Q4末	12Q3末	増減
総資産	7,901	7,973	+71
有利子負債	3,252	3,375	+123
自己資本比率	18.3%	18.6%	+0.3
D/Eレシオ	2.25	2.28	+0.03
総資産回転率	1.16	*1.12	-0.05
ROA(営業利益ベース)	2.0%	*2.2%	+0.2

\*年率換算値

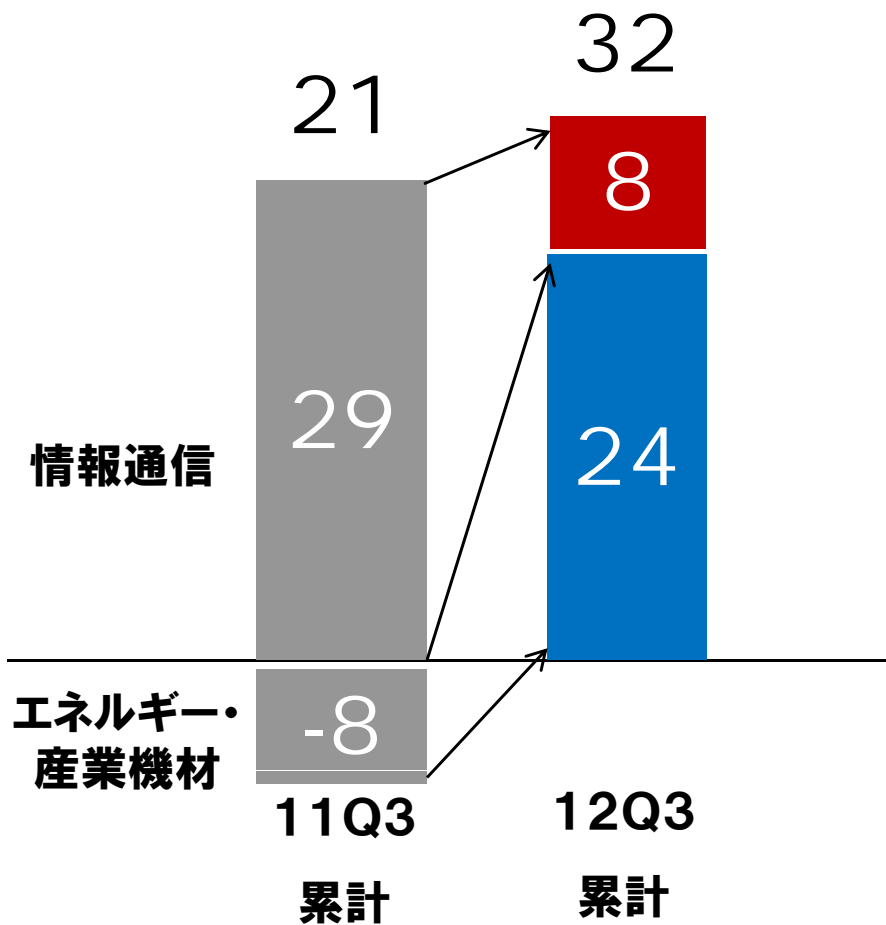
# 12Q3累計 営業利益増減分析(前年同期累計比) FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)



# セグメント別営業利益推移(前年同期累計比)

伝送インフラ系: 21 ⇒ 32(+11)



【情報通信】 29 ⇒ 8(-21)

●光ファイバ・ケーブル 17 ⇒ 14(-3)

国内工場を中心に生産性が向上したものの、南米の需要が税制恩典施行待ちによる買い控えで伸び悩んだことなどにより、減益となりました。

●フォトニクス・ネットワーク 12 ⇒ -6(-18)

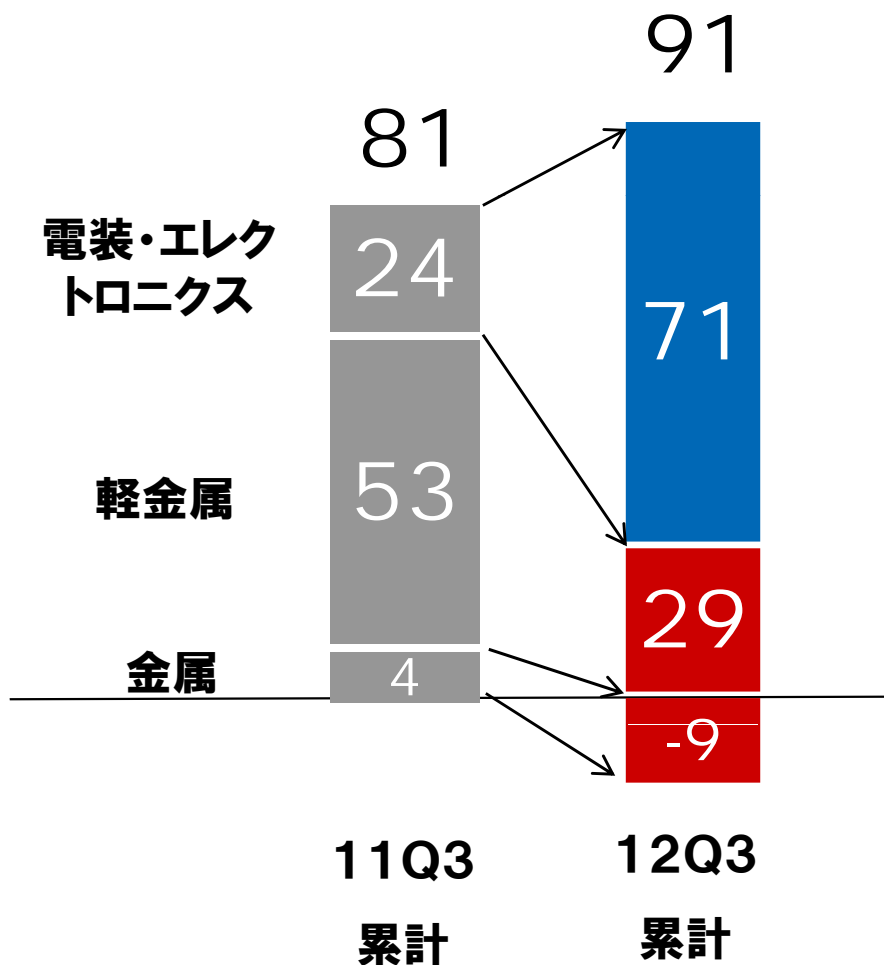
CATV向け機器が来年度以降の設備改修投資を控えての需要の端境期だったことなどにより、大幅減益となりました。

【エネルギー・産業機材】 -8 ⇒ 24(+32)

エネルギー分野では、電力ケーブルの需要が国内や中国で低調だったものの、産業機材分野では、LED液晶TV用MCPETの生産性が向上したことや、スマホ・タブレット用半導体向けテープの需要が伸長したことなどにより、大幅増益となりました。

# セグメント別営業利益推移(前年同期累計比)

## 高機能素材系:81⇒91(+10)



### 【電装・エレクトロニクス】 24⇒71(+47)

自動車用ワイヤーハーネスについては、エコカー補助金切れや中国問題の影響が限定的で、さらに軽自動車の新型車種への採用があったことなどにより好調に推移しました。また、HV向け押出平角線の需要が本格化し、かつ生産性も向上したことなどにより、大幅増益となりました。

### 【金属】 4⇒-9(-13)

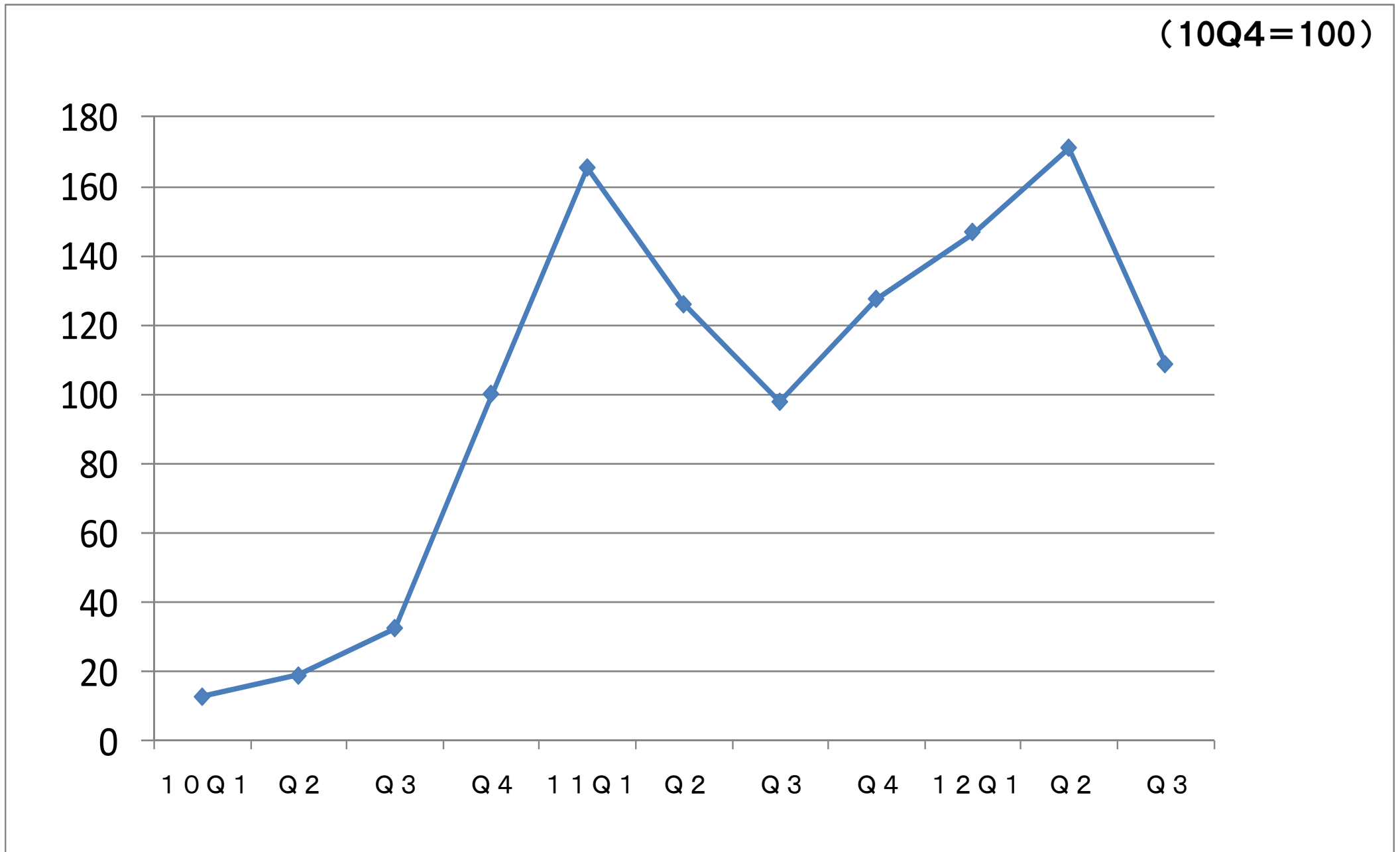
EV・エレクトロニクス分野の不振が続き、リチウムイオン電池用銅箔やリードフレーム用銅条の需要が低調だったことなどにより、減益となりました。

### 【軽金属】 53⇒29(-24)

アルミ缶材やコンデンサー用高純箔地材などの売上量が減少し、減益となりました。

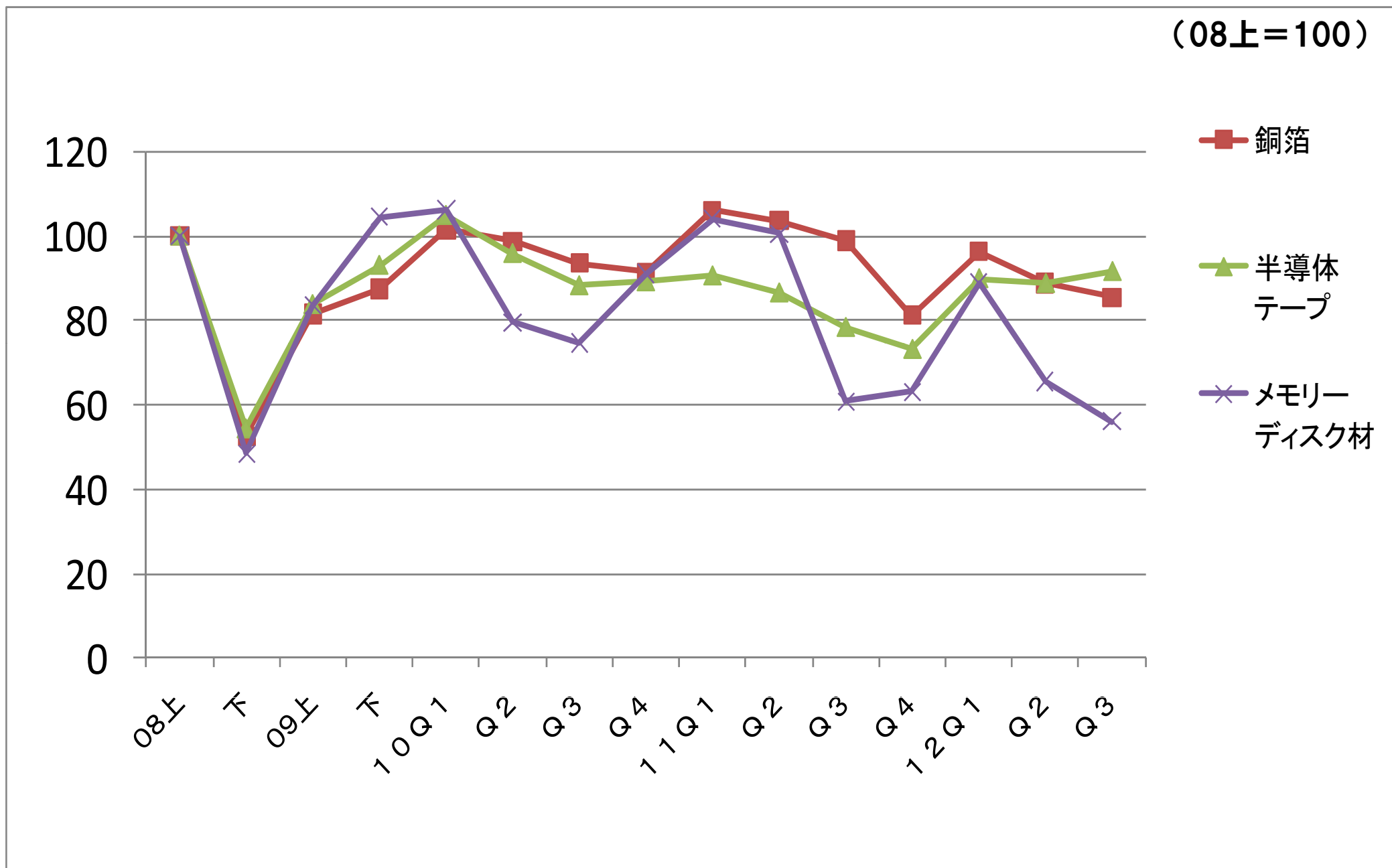
## 《液晶TV用MCPET》 売上量指数推移

FURUKAWA ELECTRIC





# 《高機能素材》 売上量指数推移



# 事業構造改革 国内事業の集約/縮小・海外シフト

## 1) 国内市場縮小による集約/縮小

### ■国内生産集約

光ケーブル 三重・千葉⇒三重(13年6月末完了予定)

導電材 三重・千葉⇒三重(14年3月末⇒13年12月末に前倒し)

### ■国内事業統合

電力部品 旭電機/井上製作所/古河PC/単体部品事業

(12年12月6日発表、単体事業を分割し13年4月に統合)

### ■国内事業縮小

巻線 汎用太物エナメル線の一部撤退を顧客と交渉中

(14年3月末完了予定)

追加)東京特殊電線

情報機器事業分離による規模縮小のため  
早期退職を実施

(12年12月14日発表、13年3月予定)

# 事業構造改革 国内事業の集約/縮小・海外シフト

## 2)国内コストアップによる海外シフト

銅箔 今市の一部⇒台湾(13年9月末完了予定)

巻線(TEX) 三重⇒台湾・マレーシア

(13年3月末⇒三重の主力品量産は12年12月末に終了)

産業用電線 一部を海外OEM化(12年12月末～)

## 3)管理部門のスリム化

本部部門などの既存機能を20%コストカット(13年4月～)

その上でグループ経営機能強化

追加)電線販売 古河エレコム・新満電を13年4月に統合

(13年1月15日発表)

## 12年度通期業績予想は「据置き」

	11通期実績	12Q3累積	12通期予想
売上高	9,188	6,679	9,500
営業利益	159	131	200
経常利益	129	123	175
特別損益	-109	-20	-45
当期利益	-111	41	20

ご清聴ありがとうございました。

***Bound to***  ***Innovate***

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。